

ガバナー一月信 vol.11



ロータリーで良いことをしよう



■ ガバナーメッセージ	1
■ 米山カウンセラー研修会のご報告	3
■ 第51回ローターアクト地区大会開催報告	4
■ 米山記念奨学生オリエンテーション ・ 歓迎会報告	5-6
■ 地区大会を終えて	7-8
■ ロータリーショーケース	9-22
■ 主要行事予定・新入会員紹介・訃報	23
■ 会員数及び出席	24
■ コーディネーターNEWS	25-26
■ ハイライトよねやま	27-28





地区大会開催皆さまに感謝します

国際ロータリー第2560地区

2020-21年度

ガバナー 佐藤 真（村上岩船）

桜の季節から若葉が茂る新緑の季節を迎えています。桜の咲き誇る美しさも好きですが、若葉が力強い緑となっていく季節も青少年の成長を感じ清々しい気持ちになります。

さて、5月は「青少年奉仕月間」です。COVID-19 感染拡大の影響で、青少年交換プログラムやライラの中止、インターアクトクラブ(IAC)やローターアクトクラブ(RAC)の活動も制限されています。私たちロータリアンは青少年奉仕活動に責任を持って、安全を第一に考えて活動を推進していく義務があります。皆さまにはこれからも青少年奉仕活動にご尽力賜りますようお願いいたします。インターアクトクラブの新規設立に向けた動きもあるようで嬉しく思います。

「ありがとうございました」

4月18日(日)2020-21年度地区大会を無事開催することができました。構想から約2年、本来は多くのロータリアンにお運びいただき、華美とはいかないまでも、盛大に本年度の集大成を飾る計画でございましたので、少し心残りではありましたが、万感の思いです。地区ロータリアンの皆さまの、ご理解とご協力に深く



感謝申し上げます。916人収容の会場内は30人余りの参加ではありましたが、私には配信先から多くの地区ロータリアンの声援が聞こえ、緊張のもと挨拶をさせていただきました。

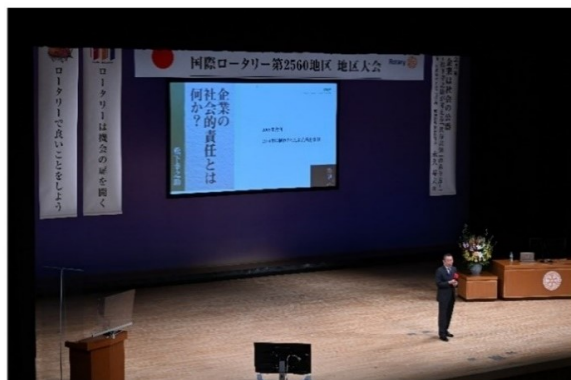
内容としては式典、報告、表彰と必要事項のみとさせていただきましたが、永久寿夫様



の講演につきましてはしっかりと時間を使って魅力ある大会とさせていただいたつもりです。永久講師には、松下幸之助が考える「共存共栄」のあり方と題し、ご講演をいただきました。

企業のあり方や考え方について、商売の基本的な考え方は昔も今も変わらず、企業は私利私欲に走るものではなく、社会の公器としての役割を果たし社会全体の繁栄を生み出すことが、企業の共存共栄に繋がるとお話をされていました。

また、松下幸之助氏のご講演の一部を生肉声で聞かせていただいたことも貴重な体験でした。後日各クラブに DVD を送りしますので、ぜひ皆さまには、何度でも繰り返し、永久寿夫氏のご講演を視聴していただければと考えています。



今、当地区新潟県においても、日々多くの COVID-19 感染者が報告されています。先月、地区ロータリアンにも 5 名の感染確認が報告されています。いつ・どこで・誰が感染しても不思議ではない状況ですが、感染しない・させなという基本方針のもと、マスクの着用、手指の消毒、三密回避や新しい生活様式を励行して、今、この厳しい局面を乗り越えていきましょう。





米山カウンセラー研修会のご報告

国際ロータリー第2560地区

米山記念奨学委員会 奨学生選考委員

渡辺 雅志（長岡西）

2021学年度米山カウンセラー研修会が2021年4月3日（土）に開催されました。今回はCOVID-19感染防止のためにANAクラウンプラザホテルでの集合研修とZoomを利用したリモート研修との同時開催で行われました。佐藤真ガバナーのリモートでの挨拶から研修会は始まりました。

続いて米山記念奨学会についてのDVDを視聴してもらい、渡邊嘉子米山記念奨学生選考委員長からカウンセラー制度・役割についての説明がありました。

続いて体験発表を元カウンセラーの立場から小林達米山記念奨学生選考委員、元米山記念奨学生の立場からネィヌエィ、ニャエイントゥさん（世話クラブ村上RC）に話をいただきました。二人の貴重な体験談にカウンセラーの皆さんは熱心に耳を傾けていました。

研修会は公益財団法人ロータリー米山記念奨学会理事でもある 新保清久パストガバナーに講評をしていただき無事に終了しました。

COVID-19の流行が収まらないなかでの研修会となってしまいました。米山記念奨学委員会としても手探り状態で活動です。このような中でも米山記念奨学委員会としては奨学生に日本に留学して良かった、米山記念奨学生になれて良かったと思ってもらえるように知恵を絞って活動していきたいと思います。カウンセラーの皆さんも奨学生の日本の頼りになるお父さん、優しいお母さんになってあげてください。





第51回ローターアクト地区大会開催報告

国際ロータリー第2560地区
地区ローターアクト委員長
関根 功雄（白根）

去る4月10日（土）、ANAクラウンプラザホテル新潟におきまして、2020-21年度国際ロータリー第2560地区ローターアクト第51回地区大会が開催されました。COVID-19感染症拡大に伴い、友好地区ローターアクトやアクトーOBOGの参加はオンラインで、更に直前の県内の感染拡大に伴い、当初参加を予定されていたロータリアンの方々にも、急遽オンラインでの参加を依頼する形となり、開催直前までバタバタしておりましたが、何とか無事に開催まで辿り着くことができました。

当日は、入場前の検温や手指消毒は勿論、座席の間隔を空け、演台にはアクリル板を設置し、感染症予防に最新の注意を払っておりました。

また、各クラブの活動報告も、オンラインによるハイブリット方式を採用した発表を行い、IT機器を駆使して滞りなく行われました。若者らしく元気に発表することができなかったため、若干物足りなさは感じましたが、COVID-19禍の中リアルに開催できたことは大変良かったと思います。

今大会に掲げたテーマ「回想」のもと、昨年開催できなかった地区大会も引継ぎ、更に次の50年に向けて、有意義な地区大会を開催することができたと思います。

今大会の準備に奮励努力してこられた長谷川実行委員長をはじめ地区役員の皆さん、地区内ローターアクト、関係するロータリアンの皆様、そして参加していただいた全ての方々に深謝申し上げます。

次年度はCOVID-19が収束し、第52回地区大会が「フルスペック」で開催できることを祈念しております。





米山記念奨学生オリエンテーション・歓迎会報告

国際ロータリー第2560地区
米山記念奨学委員会委員長
吉村 鳳一（新潟西）

去る2021年4月17日(土)新潟市のANAクラウンプラザホテル、長岡市の長岡ベルナールの2会場に於いて米山記念奨学生オリエンテーションが開催され、奨学生21名、カウンセラー20名（うち代理出席4名）、地区役員・事務局18名の計59名の参加をいただきました（新規奨学生のうち、COVID-19の関係で入国できない学生は、後日、オリエンテーション開催）。

佐藤ガバナー、新保理事、私の挨拶をDVDで視聴し、新潟会場は小林達奨学生選考委員、長岡会場は渡邊嘉子奨学生選考委員長が、米山記念奨学事業の概要、米山記念奨学生としての注意点や事務手続きの説明をしました。その後、確約書・同意書を奨学生より記名、提出してもらい、晴れて皆、米山記念奨学生になりました。

最後に、奨学生へ新潟会場は高橋ガバナーノミニーより、長岡会場は中町副委員長より、米山記念奨学生の証である「バッジ」を贈呈してもらい、お二人よりご挨拶をいただきました。オリエンテーション後、各々の会場で、記念写真を撮りました。COVID-19の関係で、残念ながら歓迎会を開催することは出来ず、代わりに細やかですがお弁当をお持ち帰りしてもらいました。

昨年はCOVID-19の関係で、オリエンテーションすら開催出来ませんでしたが、今回、奨学生とカウンセラーの方々が初めて対面して、仲良くお話になる姿を拝見して、リアルで対面することの大切さを再認識しました。奨学生は、皆、カウンセラー、ロータリアンから大切に育てられ、今後、更に成長することを確信しました。

将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍していただき、ロータリー運動の良き理解者となって欲しいと切に願います。ご出席いただきました皆様大変ありがとうございました。

米山記念奨学生は、ロータリアンお一人お一人の大切なご寄付によって支えられています。今後とも厚いご支援ご声援をお願い致します。



新潟会場



長岡会場



《奨学生バッジ》



地区大会を終えて

国際ロータリー第2560地区

2020-21年度 地区大会実行委員長

渡辺 克美（新発田）

本大会はCOVID-19感染防止により、ハイブリッド方式の新しい形での地区大会を開催させていただきました。大会にご参加いただきました地区役員の皆様、そしてオンライン視聴での参加を頂いた、地区の大勢のロータリアンの皆様、本当にありがとうございました。

本来、昨年10月24日25日での開催でしたが、時期を延期して、参加者を大幅に縮小しての開催の運びとなりました。開催に至るまでは、数多くの変更を余儀なくされた中で、関係各位、並びに各クラブの皆様には、大変な不安とご心配をおかけしましたことに、改めてお詫びを申し上げます。また、このような状況下で地区大会を無事に終えられたことは、関係各位並びに地区ロータリアンのご理解とご協力をいただいた結果であり、心から感謝を申し上げます。

さて、地区大会の目的は、ネットワークを広げ、感銘深い講演を聴き、ロータリーの様々な話題について話し合う事、そして各奉仕プロジェクトの事例紹介等を行うことによって、会員の奉仕意欲を高め、ロータリービジョンを共有し、思い出に残る親睦を経験しその感動をより良い活動にする、とあります。今回は、この目的をすべて達成できる環境にはありませんでしたが、オンラインという新しい挑戦を通じて目的が一つでも共有できたのではないかと考えております。

記念講演では、株式会社PHP研究所の永久寿夫様から「企業は会社の公器－松下幸之助が考える『共存共栄』のあり方－」をテーマにお話をいただきました。今回の講演が各ロータリアンにとって会社経営のヒントとなり、それぞれの企業や社会の繁栄の一助になれば幸いに存じます。

今はCOVID-19で多くの企業の皆さんが大変なご苦勞をされております。しかし企業はそれ以前から、時代の流れに順応しながら現在に至り、そしてこれからも変化に対応することは必須です。是非ともロータリーの4つのテストに照らしながら、これからも大いに進化し前進して行きましょう。

最後に、お祝いのメッセージを賜った来賓の方々、オンラインを含めご参加いただきました皆様と各クラブロータリアン各位の益々のご活躍とご健勝をご祈念申し上げ、地区大会参加への御礼のご挨拶いたします。





変わるモノと変わらないモノ

水原ロータリークラブ

幹事 永松 健太郎

COVID-19発生から約1年が経過し、ロータリークラブの活動や例会形式もこの1年でだいぶ様変わりしました。最も大きかったのがスケジュール変更で、当クラブの創立60周年記念式典やクリスマス家族例会、その他地区の行事も軒並み中止や縮小で難儀な年でした。

その中でも新しく「ZOOM」を活用したオンライン会議は当初戸惑いでしたが、徐々に浸透してきました。例会に関しては、会場である天朝閣様のご協力により広い会場の提供と、パーティションの設置によって万全の感染対策を実施していただきました。会員数が他のクラブと比較して少ないので、元々密になり難い環境であった事も幸いしました。そのような環境であった為、例会内容も柳会長の方針である「極力休会は避けて直接顔を合わせられるように活動が続ける」の下、1月の休会期間を除いて通常通りの例会運営を実施しました。

奉仕活動では阿賀野市防犯協会に防犯機能付き電話機20台を寄付致しました。以前までは防犯協会が5台を抽選にて寄贈していましたが、応募が多く、より多くの市民の方にご利用いただきたいと思い、当クラブにて寄付する運びとなりました。なかなか難しい年度の中で、本年度の地区テーマであった「ロータリーで良いことをしよう」が一つでも実施出来た事に安心しました。

本年度は、「変わるモノ」と「変わらないモノ」を全会員に周知徹底する為に試行錯誤致しましたが、次年度に繋がる基本が出来たと思うので、確実に引き継ぎを行い次年度以降のスムーズな例会運営及び奉仕活動等に繋げていきたいと思っています。





COVID-19禍における当クラブの活動と近況

新発田中央ロータリークラブ
会長 本田 保

今年度は、7月1日(水)大安からの始動となり、記念すべき7月第一例会では新入会員が1名加わり、さらに9月第一例会でも1名加わり、現在は会員数46名のクラブとなりました。女性会員は4名(4月16日現在)となっております。

3月中旬にはCOVID-19が蔓延し始め、社会全体が不安と恐怖に怯え、世界中に感染が広がりました。すべてが自粛ムードとなりましたが、会員の安全を考慮し、例会が開催できない時期もありました。

そのような中、「新発田市の飲食店(特に新道掛倉)の自粛ムードを払拭し、早急な活性化を支援する」ことを目的とした事業を、当クラブの社会奉仕委員会、新発田飲食業協会、新発田商工会議所青年部、ハイヤー協会などと一緒に実施しました。

具体的には、消毒・アクリル板の設置・換気などの「コロナ対策基準」をすべてクリアした店舗に「安心宣言ステッカー」などをお渡し、お客様に安心して飲食ができるPR活動を行いました。

また、当クラブが支援しているインターアクトクラブがある新発田中央高等学校に消毒のための「酸性電解水生成装置」を寄贈いたしました。マスク不足や消毒液の不足が叫ばれている時期でしたので、校内活動の安心・安全に寄与できたのではないかと存じます。

今年度より、例会場を変更いたしました。少しでも新たな例会場の雰囲気に馴染むため、例会では和やかな雰囲気にしようと、品位の中にも笑い笑顔のある例会運営に心がけました。会長挨拶も慣れないため、原稿を練り、話の最初は大事な報告を行い、中盤は46名全会員が話の中に登場するように心がけ、締めにはオチを付けて挨拶が終われるようにいたしました。

1月第3例会から現在に至るまで、zoomによるWeb例会を行っております。これに伴う例会場の売上減少の代替として、1ヵ月に1度、例会場に折詰をご用意いただいて、会員にお配りしております。折詰は事務局で配布しているのですが、その際に多少の会員間の交流を図ることができるようで、好評を得ております。

未だCOVID-19禍の収束が見えない状況にありますが、次年度から通常のクラブ運営ができることを心より願っております。



COVID-19禍に思う事

新潟東ロータリークラブ
会長 野沢 慎吾

新潟東ロータリークラブ会長の野沢慎吾です。

今年度は「ロータリーを知ろう」をクラブテーマとして活動しています。

ロータリーを知って、ロータリーの目的を達成すること本年度の方針としました。

国際ロータリー会長ホルガー・クナーク氏は、テーマを”Rotary Opens Opportunities”「ロータリーは機会の扉を開く」としました。ロータリーとは、クラブに入会するだけでなく、「無限の機会への招待」であるとクナーク氏は述べられました。

第2560地区の佐藤 真ガバナーは、「ロータリーで良いことをしよう」をテーマとしました。ロータリー活動を通じて機会の扉を開き、良いことをしましょう。クラブで、地区で、日本で、世界で「良い奉仕」を行うことを地区運営方針に掲げられました。

ロータリーは、初めに親睦、友愛があり、ここから職業奉仕が生まれ、社会奉仕に成長し、それが広がって国際奉仕になったものであります。

ロータリーの本質は、親睦の中から奉仕の理想を生み出す集団であります。

その中核がクラブであり、奉仕を志す集まりであります。同時にリーダーシップを持った人材育成がミッションです。

しかしながら今年度は、COVID-19の影響で例会や各種会議が通常通り開催できない状態が続いています。

未だに世界的にパンデミック状態が続いており、終息が見えない状況にあります。

また、今までと違った価値観が生まれています。

私はCOVID-19禍で、パラダイム・シフトするスピードを上げることが一番大切だと思います。

つまり、未来へ価値ある変化が大切だと思います。



COVID-19禍での社会奉仕

佐渡南ロータリークラブ
会長 林田 広幸

100年に一度と言われるCOVID-19の感染拡大による脅威の中、ウィルスと共存し終息の見通しが立たないまま2020-2021年度がもうすぐ終わろうとしています。

第2分区の会議はZoomによるリモート会議、予定していた納涼会、クリスマス家族会、新年会、そばの会、観桜会などの行事は感染拡大を防止し、クラブ会員以外の方と接触を避けるため軒並み中止となり、例会は感染対策を万全にすることで月2回に制限するなど、様々な制約を受けた1年でした。

その中で、地区スローガンの「ロータリーで良いことをしよう」に基づいて、当クラブでは「良いこと」をするために、真野湾から金北山を望む国道350号線沿いに約30年前に設置した交通安全看板のリニューアルを計画しました。立地により佐渡市立真野小学校の5-6年生を対象に標語を募集し、厳選な審査により2名の立派な標語を掲載することができました。真野小学校においてもCOVID-19の影響により行事が縮小、中止が相次ぐ中、児童のモチベーションが上がりとても喜んでいただきました。

生活様式が一変した世の中で、ロータリアンとして何が出来たのか、何をしなければならないのかを考える良い機会と捉えて、人と人々が普通に接することが出来る日を楽しみに新たな「良いこと」を実践していきます。



真野側 面板 W1,200×H3,600



小木側 面板 W1,200×H3,600

佐渡市滝脇地内



クラブの運営と活動の変化 ～COVID－19禍に直面して～

新津ロータリークラブ
会長 山口 高司

COVID-19の感染拡大により、当クラブも昨年の2月26日(水)から6月3日(水)までの約3か月間休会し、6月10日(水)から再開しました。再開後は、マスクやフェイスシールドの着用、手指の消毒、検温、距離の確保、換気の実施などを励行し、握手タイムも中止するなど感染対策を徹底して例会を運営しています。

また、今年の3月から食事は持ち帰り用の折詰弁当とし、4月からは外部卓話を中止して例会を月2～3回とするなど自粛を重ねています。勿論、忘年会・新年会や家族旅行は中止です。このように運営が制約される中オンライン会議等に対応するため、クラブとしてパソコン・スクリーン・周辺機器等を購入し、オンライン担当者を配置するなどしてインターネット環境の整備に努めました。

また、奉仕活動も手探りの状態が続き、主な奉仕活動のうち秋葉区ミニバスケット大会への支援と五泉特別支援学校への奉仕活動は、中止や見送りとなりました。

その中で救いとなっているのが、秋葉区の「桜並木」です。新津ロータリークラブの所在地新潟市秋葉区では、春4月、爛漫と続く桜並木が住民の目を引き付け、夜にはライトアップとぼんぼりが幻想的な風景を浮かび上がらせています。

この桜並木は、JR磐越西線の東新津駅から徒歩10分ほどの能代川分流の堤防にあり、1985年(昭和60年)から新津ロータリークラブが創立30・40・50周年記念事業の一つとして染井吉野の植樹を続け、近くの道路脇には新津ロータリークラブの三つの創立周年記念碑が2本の桜に囲まれて建っています。

その結果、能代川分流の秋葉区金沢町3丁目金盛橋から能代川分流記念公園(一の堰)までの堤防沿い約2.2キロに200本余の桜並木が造成されました。そして、この桜並木を「桜の名所」としてPRし、秋葉区内外から花見客を受け入れて地域の活性化につなげようと、地元住民や近隣の7自治・町内会の皆さんが県や区の協力を得て平成27年7月に「一の堰・能代川分流桜並木の会」を結成し、花見客の受け入れと地域の活性化に取り組んでおり、ここに、ロータリークラブ先輩の皆さんの奉仕活動が実を結び見事な花を咲かせています。





二人のロータリアン

新津中央ロータリークラブ
会長 井浦 行重

今年度、私たちのクラブにとって大きな出来事がありました。クラブ内はもちろん、地域にとっても大きな存在であった2名の現役会員の方が亡くなりました。

新津中央ロータリークラブは昨年9月に遠山悦男君、11月には目黒正文君と立て続けに2名の現役会員を失いました。お二人はとにかく明るく元気で、何事にもエネルギーで前向き。後ろ向きな発言や考えは大嫌い。まさしく太陽の様な存在でした。そのかけがえのない会員を失い、クラブは深い悲しみに包まれました。私たちはこの深い悲しみを乗り越え、現在、明るいクラブ活動をしています。いつまでも悲しんでいたら、お二人に叱られますよね。4月からは遠山悦男君の息子さんから、我がクラブに入会して頂くことになっています。本当にうれしい限りです。親から子へ会員が引き継がれて行く。クラブとして、とても有り難いです。

さて、クラブ内もCOVID-19の影響で残念ながら様々な活動が延期や中止になりましたが、出来る限りの活動は実施しました。地区財団補助金事業により、新潟市秋葉区秋葉山の秋葉湖駐車場のトイレに時計を設置しました。これは次世代の子供たちや市民の皆さんはもちろん、秋葉区以外の方にも秋葉山に来て頂き、素晴らしい里山の自然に触れあって頂きたいという願いを込めています。そして、地元FM放送のFMにいつの番組に会員の多くが出演し、ロータリーの広報活動や会員募集のCMもしています。これからも遠山悦男君が遺してくれた国道403号線花街道(別名フラワーロード)づくりの整備活動にも協力して行きます。春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモスと、一年の間に季節ごとに国道403号線を通る人たちの目を楽しませたいと思います。

写真はお二人が亡くなった時に事務局の方から作ってもらったパネル写真です。ご遺族の方にプレゼントして非常に喜ばれました。楽しいロータリー活動を仲間たちと過ごした様子が分かります。

目黒正文さん ありがとうございます



Rotary 新津中央ロータリークラブ会員一同

遠山悦男さん ありがとうございます



Rotary 新津中央ロータリークラブ会員一同



COVID-19禍に思う事

加茂ロータリークラブ

会長 涌井 幸一郎

2021年も4月を過ぎようとしています。COVID-19禍がなければ新緑の季節と来るゴールデンウィークは家族・友人と過ごす貴重な時間となるはずでした。加茂クラブでも60周年記念事業を5月に開催の予定でしたが順延を余儀なくされました。記念事業開催に昨年からの熱い思いで取り組んできた実行委員長はじめ会員は残念でなりません。それでもクラブ目標の会員純増3名を達成、4月には社会奉仕活動である恒例の加茂山清掃を実施できたのは貴重な事でした。残すところ2か月余りですが、Zoom等も活用して素晴らしいロータリー活動ができるよう、全会員で取り組みたいと思います。





COVID-19禍による 当クラブの運営の変化

三条南ロータリークラブ
会長 銅冶 康之

COVID-19の第一波が収まった2020年7月より私の会長年度がスタートしました。最初は、持帰り可能の弁当にして短時間の例会にしましたが、第二波が収まってきた10月からは非対面での着席などの対策を徹底して通常通りの例会を復活させました。

しかし、11月末より第三波が猛威を振るい、地域での感染も拡大したため、12月第2週よりクラブ例会を中止しました。その後2021年1月7日には10都府県で緊急事態宣言が発出されたため、例会を行なうことが更に困難になったと判断。休会が続いています。

対応策として1月第3週には「文書例会」としてホームページのへの掲載と会員への郵送で行い、1月第4週には当クラブ初めてのZoomによる「リモート例会」を行ないました。参加者は44名中13人と急な開催の中でもまずまずのスタートとなりました。

2月第2週には2回目のZoom例会と、それに先立ちZoom理事役員会を開催しました。

3月第1週までは実例会は休会とし、Zoomによる理事役員会、例会を開催します。緊急事態宣言が解除されるようになれば持帰り弁当での短縮例会から始めていきたいと考えています。

当クラブでは、感染拡大状況に応じてこのような運営をしています。



例会では、個人間の距離をとり非対面を着席



1月25日、初のZoom例会のため、銅冶会長（右）と幹事、オンライン担当の3名のみ集合して配信した

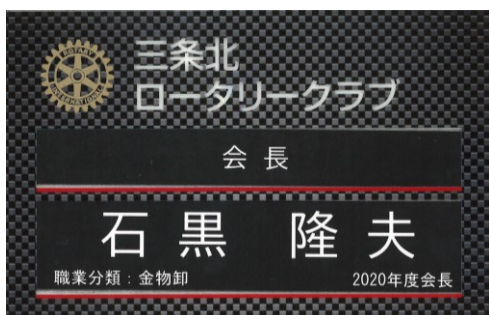


約一年を振り返って

三条北ロータリークラブ
会長 石黒 隆夫

三条北ロータリークラブの今年度のテーマは「親睦を深めよう」です。この親睦に大きく立ちほだかるCOVID-19感染の影響を覚悟はしていましたが今日の状況まで予想する事は不可能でした。そんな中でも親睦を深めるため夜例会では感染予防を徹底して自分たちのクラブをもっと知るための企画を行い、いつもの騒がしい中での親睦と違う一体感のある夜例会ができました。会員同士お互いを知る事が最も大きな親睦と考え例会卓話では会員の職場紹介として職業奉仕を兼ねて仕事の話をしていただき、週報では「北ロータリアンの知らない世界」と題し仕事以外の趣味やクラブへの思いなど会員に知られていない部分を掲載し親睦を深めることができました。社会奉仕活動は例年ですと人を多く集める事業を行ってきましたが今年度は断念し、地区内最高額の補助金を活かし三条市内の小中学校全校に非接触型温度計を各2台寄贈致しました。9月1日に教育委員会での校長会で贈呈式を行うことができロータリークラブの広報効果とイメージアップに貢献できました。

最後に今年度ネームプレートをリニューアルしました。業者に任せず我々がデザインしたいい物ができました。





COVID-19禍で継続するロータリー活動

長岡東ロータリークラブ

会長 田村 和仁

COVID-19禍で、各クラブに於かれてはロータリー活動に様々な工夫をされていることと思います。当クラブに於いても、移動例会や夜例会、長岡市内4クラブでの共同例会など見直しをしています。思ったような活動ができずに、歯がゆく感じる場面もありますが、今年度残すところ2か月になってきました。

これらの制約された活動の中で、地区補助金を活動しながら、長岡市教育委員会と歩調を合わせ、「放課後子どもいきいき応援プロジェクト」を実施しました。

当事業は、保護者が就労等の事情により、放課後帰宅しても保護者が不在となる小学生をお預かりする放課後児童クラブのニーズを把握し、サッカーボール、ゴールポスト、一輪車などそれぞれにあった物品を提供する事業となっています。

長岡市内に於いて、53箇所、3000名の児童が放課後児童クラブを利用しております。多様化する家庭環境において、子どもの健全な育成に、ロータリーとして協力できていると感じております。

例会に於いて、ロータリアン同士が交流を持つことが、これらの地域活動のベースとして重要ですが、その交流の結果、地域にアウトプットを行うことも重要であると思います。四つのテストの「みんなのためになるかどうか」という活動であると考えます。

今後も、制約された条件の中で、ロータリアンが交流を持ち、どのようなロータリー活動を行っていくか考えていかなければならないと考えております。





COVID-19禍に思うこと

小千谷ロータリークラブ

会長 西巻 吉弘

中国の湖北省武漢で最初に確認され日本ではクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号からCOVID-19という感染ウイルスが国内で多く知れ渡り、日本国内にもその感染が広がり、現在に至っています。世界規模で生活様式まで変えなければ対応出来ない最悪なものです。どの職種にしても少なからず、その影響を受け、飲食業、観光業などはダイレクトに悪影響では済まないレベルの状況が続いています。

そういう状況の中で、自分自身の所属するロータリークラブのことを考えたときに、クラブで何が出来るのかと考えてみましたが答えは出てきません。クラブの会員も感染させないことはもちろん考えて事業や地元へお金を落とす飲み会、イベントも出来ず試行錯誤の状態です。会員の中には退会を余儀なくされる経営の悪化をした会員もいます。

今はクラブ内の退会者が出ない事を祈り、地道なロータリー活動をしている現在です。新入会員の勧誘を初め、イベントも同じですが感染状況をみながら活動を続けていかなければなりません、ワクチンの接種が進み今年の年末くらいにはマスクをしないでクラブの懇親会が出来ればいいなと思います。リモート会議、会食をしないなどとにかくクラブ内から感染者を出さないことを第一に考え残りの会長職期間を頑張りたいと考えています。

悪い機会ではありますが、これからの小千谷ロータリークラブを考えた時に変化をしていかなければならない点や継続していく点などを会員それぞれが考え継続、発展をしていくクラブ作りをしていく時期に来ていると思います。



会員拡大とロータリー活動

越後魚沼ロータリークラブ

会長 三友 泰彦

我が越後魚沼クラブはメンバー数6名の地区内最小クラブです。クラブ会長や幹事の要職も3年の周期で必ず巡ってきます。何回も会長、幹事を務める中で毎回変わらない課題が会員増強です。それは我がクラブの課題のみならず、地区全体の最優先課題でもあります。歴史あるロータリークラブは、職業奉仕や社会奉仕活動に取り組み、特に青少年育成やポリオ撲滅に実績を残して来ました。

一方、ロータリークラブはインターナショナルであることと、毎年役員が変わることで、事業が固定化している一面も見せています。例えば、我が国特有の課題や地域の課題も多くありますが、そうした課題にはNPO団体やまちづくり団体などが取り組み、私もそうした団体に所属し活動しています。青少年育成でもロータリー財団や米山奨学金が果たす役割は大きいのですが、足元では貧困や様々な虐待の犠牲になる子供たちも残念ながら我が国の今日的課題の一つになっています。当然ながらロータリークラブとして、地域の団体と一緒に取り組むことは可能ですが、ロータリーの資金は既存の数々の事業に充てられますし、メンバーの活動にも限界があります。地区運営に余り寄与できていない弱小クラブではありますが、ロータリーの資源を既存の活動だけでなく、少し地域に向ける事が出来たら、新入会員獲得には大きな効果を発揮するのではないのでしょうか。



分散例会という試み

高田ロータリークラブ

会長 大島 誠

昨年の春以来、COVID-19の蔓延により、どのクラブでも、ロータリー活動の本旨である親睦の活動が希薄になっていることと思います。高田クラブでは例会会場の協力を頂きながら、出来るだけ通常の活動に近い状態を維持する努力をしてきましたが、令和3年に入り、新年例会、オークション、そして観桜会と飲食を伴う例会は残念ながら中止を決断いたしました。しかし、繰り返になりますが、ロータリー活動の本旨は会員同士の親睦、交流だと認識しています。せっかくロータリークラブにご入会いただいた新入会員にとっても、例会時の交流だけではロータリークラブの素晴らしさを体験いただくことが難しい状況だとも感じていました。

そこで、3月12日 思い切って「分散例会」に挑戦いたしました。通常は例会場に全員が集まるわけですが、この日は委員会単位で会場を設営いただき、集まる時間も昼でも夜でもメンバーの都合に合わせる事といたしました。会長挨拶と幹事報告は事前に委員長にペーパーでお渡しし、会の最初に朗読をして頂きました。会長の挨拶の後は、今年度 活動が滞りがちな委員会の打合せを行っていただき、終了後は十分に懇親を深めて頂きました。ひとつの会場は4名までを基本とし、懇親の時間は90分以内と制限。また、費用については例会費用と委員会費を合わせ、お一人5000円を事務局から事前に支給させて頂きました。

会員の皆様からの評価は非常に高く、久しぶりに会員同士の交流が出来たと喜んでいただきました。COVID-19の蔓延の有無に関わらず、年に1回の定例にしてはどうかとのご意見も頂きました。ロータリークラブが会議体であればWEBでの開催でも十分かと思いますが、ロータリークラブはリアルな交流を行ってこそと改めて認識いたしました。



COVID-19禍でのクラブ運営

高田東ロータリークラブ
会長 清水 信博

会長として、今年度は「何が何でも、クラブ運営の基本である例会を中止しない。」この事を中心に据え考えてきました。

全世界に感染しているCOVID-19は、1年を過ぎた現在でも収まりません。それどころか第3波、第4波とまだまだ勢いが止まりません。このような状況下で、「例会を中止しない。」などと何を馬鹿げた事を言っているのかとご批判も一方で受け止めながら、進めて参りました。COVID-19禍で中止を決定するのはある意味で簡単です。COVID-19だから仕方ない。十分な理由になります。

しかしながら、形を変えて何とか続けられないか。三密を避けながら、同時に当クラブから決して一人の感染者も出さずに続けられないか。残り3か月を切った今、思い起こせばこの事だけを1年間考え続けてきたような気がします。

テーブル配置から飛散防止パネルの設置等の物理的防止策はもとより、例会の進め方を変更する。持ち帰り弁当にする。時間短縮する。卓話講師の選定をする等、考え得る全ての事をして参りました。

当クラブ会員の多数の意見として「例会は出席に意味がある。だから対面だ。」であり「リモートは例会ではない。」と言った意見が多数を占めています。

このようなクラブ意見を十分配慮しながら、一方、対面に対して否定的なメンバーにも意見を聞きながら運営をしてきた結果、ほぼ休会する事無くプログラム通りに進める事が出来ました。同時に例年以上の出席率で、例会に対する当メンバーの想いの強さを改めて感じました。会社都合による人事異動を除けば退会者も出ておらず、何とか知恵を出し合えばクラブ運営は成り立ち、メンバーがそれぞれ満足してもらえる事も可能である。改めてこの事を感じました。

例会を含めたクラブ事業を中止する事は最後の最後の手段であり、決して諦めないというクラブの想いを受け取り、一方危機意識を常に心に持ち続ける。

今後に残り僅かですが、しっかり運営を進めて参ります。



地区主要行事予定5月-6月

2021年4月27日現在

年 月 日			行 事	会 場
2021年 (R3) 佐藤年度	5月	青少年奉仕月間		
		8	(土) 加茂RC 創立60周年記念式典 →延期	清雲亭山重
		15~16	(土~日) RI日本青少年交換研修会 →中止	ホテルオークラ新潟
		15	(土) 財団奨学生オリエンテーション →中止	ホテルオークラ新潟
		18	(火) 新潟RC創立80周年記念式典 →縮小開催	ホテルイタリア軒
		22	(土) 高尾年度 地区研修・協議会	ANAクラウンプラザホテル
	6月	25	(火) 日本のロータリー100周年を祝う会	ザ・プリンス パークタワー東京
		ロータリー親睦活動月間		
		5	(土) 中条RC創立60周年記念 →縮小開催	中条グランドホテル
		6	(日) ローターアクト地区協議会	
		12	(土) 燕RC創立60周年記念式典	燕三条ワシントンホテル
		12~16	(土~水) RI国際大会	バーチャル形式
		13	(日) 第3分区IM (野崎G補佐・村松)	割烹 松の家
		19	(土) 第4分区IM (丸山G補佐・吉田)	燕市吉田産業会館
		20	(日) ローター財団 学友会総会 →中止	ホテルイタリア軒
		26	(土) 佐藤年度感謝の集い	ホテルオークラ新潟
		27~28	(日~月) クラブ活性化セミナー2021	バーチャル形式

新入会員紹介 (敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
雪国魚沼	海津 博之	2021.3.18	八海醸造株式会社	専務取締役	酒造業
雪国魚沼	村上 大介	2021.3.25	日本生命保険相互会社	営業部長	保険業
糸魚川中央	加藤 康太郎	2021.4.1	(有) 二葉デンキ商会	代表取締役	電気器具配布
高田東	菊池 聡	2021.4.1	住友生命保険相互会社	上越営業部長	生命保険業
高田東	下田 祐貴	2021.4.1	日本生命保険相互会社	営業部長	生命保険業
中条胎内	佐藤 眞利	2021.4.9	菊栄商事有限公司	取締役	不動産業

訃報 (敬称略)

RC	氏名	逝去日	会社名	役職	職業分類	経歴・その他
白根	岩崎 秀男	2021.3.27	岩崎金網工業株式会社	代表取締役	金網製造	
五泉	坂上 洋司	2021.3.29	坂上商店	代表	繊維原料販売	

第2560地区 2020-21年度3月末 会員数およびMy Rotaryアカウント登録率

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2020年 7月1日	3月末 会員数	うち女性	増減
第1分区(9クラブ)	／	－	387	385	38	－2
新発田	0	28.1%	95	96	0	1
村上	4	16.7%	40	41	10	1
水原	2	21.9%	30	32	1	2
中条	3	90.5%	43	42	3	－1
新発田城南	4	16.7%	44	42	4	－2
豊栄	3	13.0%	23	23	4	0
新発田中央	4	4.3%	45	46	4	1
中条胎内	4	58.3%	36	34	6	－2
村上岩船	4	24.1%	31	29	6	－2
第2分区(9クラブ)	／	－	433	441	25	8
新潟	3	20.9%	88	82	2	－6
新潟東	2	14.1%	63	64	8	1
新潟南	5	32.4%	96	107	3	11
佐渡	2	100.0%	6	6	0	0
新潟西	4	51.3%	38	39	2	1
佐渡南	3	12.8%	40	39	4	－1
新潟北	3	30.0%	39	40	0	1
新潟中央	4	39.1%	20	22	0	2
新潟万代	5	51.2%	43	42	6	－1
第3分区(6クラブ)	／	－	102	95	4	－7
新津	4	12.5%	16	15	0	－1
村松	4	66.7%	12	12	0	0
五泉	3	0.0%	12	11	1	－1
白根	4	30.0%	30	29	1	－1
新津中央	4	34.8%	26	22	2	－4
阿賀野川ライン	2	0.0%	6	6	0	0
第4分区(11クラブ)	／	－	369	372	27	3
三条	4	11.7%	57	59	0	2
燕	3	5.6%	36	36	3	0
加茂	4	9.1%	30	33	5	3
三条南	3	13.6%	45	44	2	－1
分水	5	80.0%	30	29	4	－1
見附	3	9.1%	22	22	1	0
吉田	2	6.7%	26	30	4	4
三条北	3	0.0%	60	56	2	－4
巻	4	0.0%	23	24	2	1
田上あじさい	5	14.3%	7	7	1	0
三条東	3	6.3%	33	32	3	－1

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2020年 7月1日	3月末 会員数	うち女性	増減
第5分区(7クラブ)	／	－	306	297	27	－9
長岡	3	88.4%	49	44	4	－5
柏崎	3	2.4%	42	41	0	－1
長岡東	3	26.8%	57	55	3	－2
柏崎東	2	18.2%	46	44	3	－2
栃尾	4	12.0%	24	25	0	1
長岡西	3	20.0%	52	50	5	－2
柏崎中央	4	23.1%	36	38	12	2
第6分区(6クラブ)	／	－	130	132	11	2
十日町	3	29.0%	29	31	3	2
小千谷	4	10.3%	27	29	3	2
雪国魚沼	5	20.8%	24	24	3	0
十日町北	3	0.0%	21	20	1	－1
津南	4	17.4%	23	22	1	－1
越後魚沼	4	16.7%	6	6	0	0
第7分区(8クラブ)	／	－	337	327	24	－10
高田	4	31.6%	76	77	5	1
直江津	4	35.7%	71	67	6	－4
新井妙高	4	12.1%	32	33	1	1
糸魚川	3	83.3%	41	42	3	1
高田東	5	62.9%	36	33	2	－3
糸魚川中央	4	50.0%	33	29	0	－4
頸北	3	20.0%	10	10	1	0
越後春日山	3	100.0%	38	36	6	－2

クラブ数	56 クラブ
7月1日 会員数	2,064 人
3月末 会員数	2,049 人
女性会員数	156 人
純増減会員数	－15 人
My Rotaryアカウント登録率	29.0 %



ロータリー NEWS

コーディネーター 2021年5月号 No.1

発行：Region 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

『さあ、手を取り合って行動しよう！』

『世界を変える行動人』である私たちのミッションは、ビジョン声明にあるように、持続可能なよい変化を生むために行動することです。ビジョン声明の英文はTogether, we see a world where people unite and take action to create lasting change— across the globe, in our communities, and in ourselves.です。文頭に注目してみると、Together（一緒に）という単語で始まっています。日本語訳の中でTogetherは「わたしたち」「人々が手を取り合って」という文言で表現されているのかと思います。

では、「わたしたち」とはだれを指すのでしょうか。まずロータリアンです。それだけでしょいか？そこにはローターアクターを始め、ロータリーの奨学生や学友といったロータリーファミリーのみなさんの存在があります。地域社会の方々もいます。そして、ロータリアンの家族の方々もいます。「わたしたち」の幅が広がれば広がるほど、手を取り合って、共に行動する仲間が増えます。

以前、雑誌The Rotarian（現在の雑誌Rotary）で、食料が不足して困っているアメリカの田舎町で行われた奉仕活動の記事を読んだことがあります。週末になると、ロータリアンと地域の子供たちはバスで農園に出かけます。農家の人たちの協力を得て、種の撒き方や苗の育て方を習い、子供たちは農作業に取り組みます。週末に定期的に農園に通って、作業をし、農作物の成長の過程を見て学びます。収穫の時が来ると感謝して刈り取り、必要としている人々に届けます。最初は小さなプロジェクトでしたが、運搬の車を出す人、肥料を提供する人、土地を提供する人などが加わっていき、ついには市を上げての大プロジェクトとなり、この町では食糧難に苦しむ人がいなくなったという話でした。

私たちが現在行っている奉仕活動の中に、あるいはこれから取り組もうとしている奉仕活動に、地域の人々やロータリーファミリーを巻き込んで一緒に活動できるものがないでしょうか。ロータリーの活動に参加して、手を取り合って一緒に行動してみることが、ロータリーを知り、理解していただく何よりの機会になるように思います。おそらくこれがロータリーの公共イメージ向上への一番の近道と言えるかもしれません。その結果として、ロータリアンの仲間が増えていき、奉仕の扉は私たちの前にさらに大きく開かれるでしょう。

第2地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 服部 陽子（東京広尾RC）

会員増強 MISSION POSSIBLE

コロナ禍に乗じて、「THE ROTARY MOTIVATION」（A4判160頁）という標題のテキストを作りました（「ロータリーの友」4月号42頁参照）。会員増強や組織課題についても若干の模索を試みているので、それを基に以下の通りまとめさせていただきました。

●ネットネイティブ世代がやってくる

私たちの子どもや孫のような世代がロータリーを担っていく時代になる日もそう遠くないと感じるようになってきました。義理人情を絡めた会員増強策が、ネットネイティブな若年齢層や女性層に対して通用していくでしょうか。今のロータリアンはブーマー世代が中心ではないかと思いますが、それに続くミレニアル世代（Y世代）やZ世代の思考や感性の違いを理解しないと、彼らを入会や在籍に結びつけられるのか疑問です。世代の空白をつくらないように、年齢バランスのとれたクラブ会員構成を保ち続けていくことが重要になると思います。若年齢会員の増強は世代交代につながります。

●日本の女性会員比率は世界最下位レベル

「THE ROTARY MOTIVATION」の特別編集として、新規に作成した「ロータリーと女性」という標題のテキスト（パワーポイント版10頁）を別添付します。女性会員増強に向けたセミナーや例会などで、どなたでも自由に使うことができます。

一部をご紹介しますと、S-05頁は、ロータリー存在国別の女性ロータリー会員比率を整理したデータです。日本のロータリー会員総数は世界で上位3番目であるのに対して、女性ロータリー会員比率は世界で下位3番目となっています。最下位の二国は国土も人口も僅かなので、日本は実質的に最下位と言っても良いような状態だといことがわかります。日本の女性ロータリー会員比率が約7%だという認識はあっても、世界の中でのポジションについては、あまり認識されていないかもしれません。

●MISSION POSSIBLE

会員増強は、クラブあるいは会員個人が、自身の問題として意識を定着化していくことが始まりだと思います。地域社会に向けた奉仕活動をしようにという際でもポリオを根絶しようという際でも、問題意識がなかったら戦略も行動も何も起こらないでしょう。目先の会員維持対応も危機感に満ちた課題ですが、会員増強の手法自体を戦略的に位置づけていくことが不可欠だと思います。特に若年齢層や女性の増強を考えた時には、上述したようなデータを読み解いて、自分たちに可能な作戦（MISSION POSSIBLE）を計画していくこと、そこから先は熱いハートに切り替えて取り組むことが必要になると思います。そして常に、プロセスや結果を検証していくという蓄積も忘れてはならないと思います。

第2地域 ロータリーコーディネーター補佐 関 邦則（長野RC）



1. オープンマインドで多様性への理解を

近年、LGBTQ+ (性的マイノリティ) であることを明らかにする留学生が増えています。LGBTQ+の学生は、異国である日本の文化や言語を習得する以外に、その国で新たにできた友人や世話になる人々へ、自分のアイデンティティをどのように説明するか、また、カミングアウトをしてどのような対応をされるのかなどの葛藤を常に抱えていることも稀ではありません。

国際ロータリー理事会は、ロータリーが「多

様性を重んじ、年齢、民族、人種、肌の色、能力、宗教、社会的地位、文化、性別、性的指向、性自認にかかわらず、あらゆる背景をもつ人の貢献を称える」ことを再確認しています。

LGBTQ+の学生を含め、どのような留学生であっても、米山奨学生としての誇りを持って学業に専念し、地区の行事や世話クラブの活動にも参加できるよう、あらためて皆さんのご理解とご配慮をよろしくお願いいたします。

2. 各地区で奨学生オリエンテーションを開催

新しい奨学生を迎える季節になりました。今年の奨学生オリエンテーションも新型コロナウイルスの状況に配慮しながらの開催となっています。人と人との交流が希薄になりがちな時代ですが、米山奨学生がロータリーの活動に親しみ、末永く交流できる基盤づくりをよろしくお願いいたします。

第2510地区【北海道】 大学から在学学生へ出された行動指針の基準に沿って、風力計で換気を確認、CO₂濃度も常にチェックするなどホテ



ルの協力に対策を徹底。300人規模の会場に約70人が参加しました。

第2770地区【埼玉県】 会場に集合して開催。今年は確約書の説明と、奨学生・カウンセラーの顔合わせ、自己紹介をメインとし、米山記念

奨学事業の詳しい説明や、カウンセラーオリエンテーションは後日Zoomで実施します。



(写真は学友のジョン・ミンさん撮影)

第2670地区【徳島・香川・愛媛・高知県】

原則として分区ごとに実施。愛媛分区ではオリエンテーションとカウンセラー研修を個別に実施。奨学生、カウンセラー、幹事、事務局職員にも出席いただき、奨学生の心得を説明し奨学金とバッジを贈呈。クラブ側の事務処理についても十分説明できたことが個別訪問のメリットでした。他の3分区は集合形式で開催します。



タイ米山学友会 総会のご案内

2021年5月15日(土) タイ時間 17:00～(日本時間 19:00)、受付として 16:30～(日本時間 18:30) より Zoom 開始、5月8日までに thaiyoneyama@gmail.com へ事前申し込みのこと

3. 寄付金速報 ― コロナ禍のご支援に感謝 ―

3月までの寄付金は前年同期と比べて1.9%減(普通寄付金:1.4%減、特別寄付金:2.3%減)、先月と変わらず約2,200万円の減少となりました。新型コロナウイルスの再拡大によりリアルでの例会開催が困難な中、皆様からの貴重なご

寄付に厚く御礼申し上げます。早くワクチン接種が進み、安心して通常の生活に戻れることを祈るばかりです。今年度も残り２ヶ月半ですが、引き続き米山記念奨学事業へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

4. マレーシア米山学友会が Zoom 総会を開催

3月20日(土)、マレーシア学友会総会がZoomで開催されました。当日はマレーシア国内だけでなく、海外在住の同国出身学友、その他ロータリアンや他学友会代表者ら総勢60人ほどが参加。ウォンライオン黄麗容会長(2001-04/横浜泉RC)は冒頭で、「学友会に参加するのは、意義と恩を感じているから。私たちがもらった米山奨学金は、天から降ってきたものではなく、日本のロータリアンが出し合って集められたもの。世界唯一の顔の見える奨学金制度。教育で世界は変わるという、ロータリアンの信念です」と述べ、米山学友が集まる意義を力強く語りました。続いて活動報告や決算報告、そして、マレーシア当局の手続きに則って役員選挙が行

われた結果、新幹事としてキュー イー ホンさん（2016-17／岩見沢東ＲＣ）が選任され、他の役員は再任となりました。



このほか、「世界米山学友の集い」提唱者の一人である何玉翠さんと、関東での開催実行委員長に就任した朴貞子さんから、次回の集いの説明と参加の呼びかけがありました。その

後も交流は長時間続き、日本のロータリアンとマレーシアの学友が新たに繋がる場面もありました。Zoomであっても、繋がり続けることの大切さを実感するすばらしい総会でした。

5. 第4代よねやま親善大使の自己紹介動画

昨年7月から活動を開始した第4代よねやま親善大使。本来であれば、全国の各地区を訪問し、米山関連の研修セミナーなどでスピーチをし、ロータリアンの皆さまや各地区の奨学生・学友と交流し、米山記念奨学事業の理解を深め



てもらうことを主な活動としています。今回、親善大使が各自で自己紹介の動画を作ってくれました（1人約10分）。3人の魅力はこの短い動画には収まりきれませんが、ぜひ多くの方にご覧いただき、親善大使の招へいをご検討ください。招へいのご依頼・ご相談は下記まで。現在、Zoomでの参加要請もお受けしています。

- 親善大使の動画ページ：
（右QRコードを読み取ってください）
- 親善大使の招へい：広報担当
seminar@rotary-vonevama.or.jp

